



# VMware Horizon 7 バージョン 7.3.2 リリースノート

2017 年 10 月 3 日リリース

最終更新日：2021 年 3 月 14 日

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [本リリースの新機能](#)
- [ご使用前の注意事項](#)
- [利用可能な言語](#)
- [互換性に関する注意](#)
- [サポートされている Windows 10 オペレーティング システム](#)
- [Red Hat Enterprise Linux Workstation のサポート](#)
- [Horizon 7 の以前のリリース](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

## 本リリースの新機能

VMware Horizon 7 バージョン 7.3.1 は、以下の新機能および機能強化を提供します。これらの情報をインストール可能なコンポーネント別に提供します。

- [Horizon Connection Server](#)
- [Horizon Agent for Linux](#)
- [Horizon Agent](#)
- [Horizon GPO Bundle](#)
- [Horizon Client](#)

このリリースで解決された問題の詳細については、[解決した問題](#)を参照してください。

### Horizon Connection Server

- [Horizon Help Desk Tool](#)
  - アプリケーション名とプロセス名、仮想または公開デスクトップ内でのリソースの使用状況が表示されます。これにより、マシン リソースを使用しているアプリケーションとプロセスを確認できます。
  - ユーザーのアクティビティに関するイベント ログ情報が表示されます。
  - Horizon Client のバージョンや Blast プロトコルなど、更新されたメトリックが表示されます。
  - 仮想マシンの情報、CPU、メモリ使用量などの追加のセッション メトリックスが表示されます。
  - 定義済みの管理者ロールを Horizon Help Desk Tool 管理者に割り当て、他の管理者ユーザーにトラブルシューティング タスクを委任できます。また、カスタム ロールを作成し、定義済みの管理者ロールに基づいて権限を追加できます。
  - Horizon Help Desk Tool のプロダクト ライセンス キーを確認し、有効なライセンスを適用できます。
- [監視](#)
  - イベント データベースがシャットダウンしたときに、Horizon Administrator がイベント データベ

スのシャットダウンの前後に発生したイベントの監査証跡を維持します。

- **インスタント クローン**
  - 専用のインスタント クローン デスクトップ プールを作成できます。
  - このリリースのインスタント クローンは Windows Server オペレーティング システムをサポートします。サポートされる Windows Server オペレーティング システムの最新リストについては、VMware のナレッジベースの記事 [KB2150295](#) を参照してください。
  - インスタント クローン デスクトップ プールの作成時に、Active Directory コンテナ フィールドで Active Directory ツリー パスのコピー、貼り付け、入力を行うことができます。
  - vSphere Web Client に作成された 4 つの内部フォルダのすべてに内部仮想マシンがない場合、これらのフォルダの保護が解除され、削除することができます。
  - 機能強化されたインスタント クローン メンテナンス ユーティリティ `IcUnprotect.cmd` を使用して、テンプレート、レプリカ、親仮想マシンまたはフォルダの保護を解除し、vSphere ホストから削除できます。
  - インスタント クローンは、Storage DRS (sDRS) と互換性があります。インスタント クローンは、sDRS クラスタを構成するデータストア内に配置できます。
- **クラウド ポッド アーキテクチャ**
  - セッションの合計数の上限が 140,000 に増えました。
  - サイトの上限が 7 に増えました。
  - グローバル資格に Windows スタート メニューのショートカットを設定できます。資格のあるユーザーがポッド フェデレーションの Connection Server インスタンスに接続すると、Horizon Client for Windows は、これらのショートカットをユーザーの Windows クライアント デバイスのスタート メニューに配置します。
- **公開デスクトップとアプリケーション プール**
  - 資格のあるデスクトップ プール、アプリケーション プール、グローバル資格、グローバル アプリケーション資格に対する特定のクライアント コンピュータからのアクセスを制限できます。
  - 資格のあるデスクトップとアプリケーション プールに Windows スタート メニューのショートカットを設定できます。資格のあるユーザーが Connection Server インスタンスに接続すると、Horizon Client for Windows は、これらのショートカットをユーザーの Windows クライアント デバイスのスタート メニューに配置します。
- **仮想デスクトップとデスクトップ プール**
  - Windows クライアントでネットワークが一時的に切断したときも、Blast Extreme によりネットワーク接続が維持されます。
  - Windows エージェントの PerfMon に表示される Blast セッション、イメージ、オーディオ、CDR、USB、仮想印刷のパフォーマンス カウンタに、システムの現在の状態が正確に反映され、一定の間隔で更新されます。
- **カスタム エクスペリエンス改善プログラム**
  - CEIP を通して収集されるデータおよび VMware のその使用目的に関する詳細は、[信頼と確実性センター](#)に記載されています。
- **セキュリティ**
  - DMZ ベースのセキュリティ サーバの展開環境では、Session Enhancement SDK 機能経由で USB を使用すると、USB トラフィック用に TCP ポート 32111 を開く必要はありません。この機能は、RDS ホストの仮想デスクトップと公開デスクトップの両方でサポートされます。
- **データベース サポート**
  - このリリースの Horizon 7 では、Microsoft SQL Server 2014 の Always On 可用性グループ機能がサポートされます。

## Horizon Agent for Linux

Horizon Agent for Linux デスクトップで次の機能がサポートされます。

- **UDP ベースの Blast Extreme 接続**

クライアントとエージェントの両方で、ユーザー データグラム プロトコル (UDP) がデフォルトで有効になっています。ローカル エリア ネットワーク (LAN) では、伝送制御プロトコル (TCP) のパフォーマンスが UDP を上回ります。ワイド エリア ネットワーク (WAN) では、UDP のパフォーマンスが TCP を上回り

ます。LAN の場合には、UDP 機能を無効にして TCP に切り替え、接続パフォーマンスを向上させていただきます。

- **KDE サポート**  
CentOS 7、RHEL 7、Ubuntu 14.04、Ubuntu 16.04、SLED 11 SP4 プラットフォームで K Desktop Environment (KDE) サポートを利用できます。
- **MATE サポート**  
Ubuntu 14.04 と 16.04 の仮想マシンで MATE デスクトップ環境がサポートされます。
- **ハードウェア H.264 エンコーダ**  
vGPU に NVIDIA グラフィックスカードが構成され、NVIDIA ドライバ 384 シリーズ以降がインストールされている場合に、ハードウェア H.264 エンコーダを利用できます。
- **追加のプラットフォーム サポート**  
RHEL 7.4 x64 と CentOS 7.4 x64 がサポートされるようになりました。

## Horizon Agent

- **HTML5 マルチメディア リダイレクト**  
エンドユーザーが Chrome ブラウザを使用している場合、HTML5 マルチメディア リダイレクトは HTML5 マルチメディア コンテンツをリモート デスクトップからクライアント システムに送信します。これにより、ESXi ホストの負荷が低減されます。クライアント システムがマルチメディア コンテンツを再生するので、オーディオとビデオのユーザー エクスペリエンスが向上します。Horizon Agent インストーラで HTML5 マルチメディア リダイレクト カスタム セットアップ オプションを選択して、HTML5 マルチメディア リダイレクト機能をインストールできます。次のように、コマンドラインで HTML5MMR オプションを使用すると、この機能をサイレント インストールできます。`VMware-viewagent-x86_64-7.3.1-XXXXXXX.exe /s /v"/qn VDM_VC_MANAGED_AGENT=1 ADDLOCAL=Core,SVIAgent,RTAV,ClientDriveRedirection,ThinPrint,VmwVaudio,HTML5MMR"`
- **SHA-256 のサポート**  
Horizon Agent が更新され、SHA-256 暗号ハッシュ アルゴリズムがサポートされるようになりました。SHA-256 は、Horizon Client 4.6、Horizon 7 バージョン 7.2 以降でもサポートされています。
- **User Environment Manager による USB リダイレクトの向上**
  - User Environment Manager タイムアウトのデフォルト値が大きくなりました。この変更により、ログイン プロセスに時間がかかっても、USB リダイレクト スマート ポリシーが有効になります。Horizon Client 4.6 では、User Environment Manager タイムアウト値はエージェントにのみ設定され、この値がエージェントからクライアントに送信されます。
  - User Environment Manager の USB リダイレクト コントロールをエージェント マシンのレジストリ キーでバイパスできます。この変更により、Teradici ゼロ クライアントでスマート カード SSO が機能します。詳細については、VMware のナレッジベースの記事 [KB2151440 Smart card SSO fails when you use User Environment Manager with a zero client](#) を参照してください。

## Horizon GPO Bundle

- **VMware Horizon プリンタ リダイレクト ADMX テンプレート ファイル**  
この新しい ADMX テンプレート ファイル (`vdm_agent_printing.admx`) には、リダイレクトされるプリンタをフィルタリングするポリシー設定が含まれています。
- **「VMware HTML5 マルチメディア リダイレクトを有効にする」グループ ポリシー設定**  
この新しい VMware View Agent 設定 ADMX テンプレート ファイル (`vdm_agent.admx`) のグループ ポリシー設定を使用すると、HTML5 マルチメディア リダイレクト機能を有効にできます。
- **「VMware HTML5 マルチメディア リダイレクトの URL リストを有効にする」グループ ポリシー設定**  
この新しい VMware View Agent 設定 ADMX テンプレート ファイル (`vdm_agent.admx`) のグループ ポリシー設定を使用すると、HTML5 マルチメディアをリダイレクトする Web サイトを指定できます。
- **「GPO の壁紙設定を強制的に使用する」グループ ポリシー設定**  
この新しい個人設定管理 ADMX テンプレート ファイル (`ViewPM.admx`) グループ ポリシー設定を使用すると、Active Directory グループ ポリシー設定で指定した壁紙を適用できます。

## Horizon Client

HTML Access を含む Horizon Client 4.6 の新機能については、[Horizon Client のドキュメント](#) ページを参照してください。

## ご使用前の注意事項

- **VMware View Composer のインストールに関する重要事項**

View Composer 7.2 以降をインストールまたはアップグレードする場合には、Microsoft .NET Framework をバージョン 4.6.1 にアップグレードする必要があります。アップグレードしない場合は、インストールに失敗します。

- **VMware Tools のインストールに関する重要事項**

vSphere で提供されているデフォルトのバージョンではなく、VMware 製品のダウンロード ページからダウンロードされた VMware Tools バージョンをインストールする予定の場合は、その VMware Tools バージョンがサポートされていることを確認してください。サポートされる VMware Tools バージョンを特定するには、[VMware 製品の相互運用性マトリックス](#) にアクセスし、ソリューションで「VMware Horizon View」およびバージョン番号を選択してから、「VMware Tools (downloadable only)」を選択します。

- View Composer をサイレント インストールする場合、VMware のナレッジベースの記事 KB2148204「[Microsoft Windows Installer Command-Line Options for Horizon Composer](#)」を参照してください。
- この Horizon 7 リリースには、以前のリリースの一部と異なる新しい構成要件が採用されています。アップグレード手順については、『View アップグレード』ドキュメントを参照してください。
- Horizon 6.2 より前の環境を Horizon 7 にアップグレードする場合、および Connection Server、セキュリティサーバ、または View Composer Server がデフォルトでインストールされた自己署名証明書を使用する場合、アップグレードを実行する前に既存の自己署名証明書を削除する必要があります。既存の自己署名証明書が残っていると、接続が機能しない場合があります。アップグレード中に、インストーラは、既存の証明書を置き換えません。古い自己署名証明書を削除すると、新しい証明書が確実にインストールされます。このリリースの自己署名証明書では、6.2 より前のリリースと比べて、より長い RSA 鍵（1024 ビットではなく、2048 ビット）と、より強力な署名（SHA-1 と RSA の組み合わせではなく、SHA-256 と RSA の組み合わせ）が使用されています。自己署名証明書は安全ではないため、できる限り速やかに CA によって署名された証明書に置き換える必要があります。また、SHA-1 はすでに安全とはみなされておらず、SHA-2 証明書に置き換える必要があります。  
VMware の推奨に従い、実稼動環境で使用するためにインストールした、CA で署名された証明書は削除しないでください。CA で署名された証明書は、このリリースにアップグレードした後も引き続き機能します。
- Virtual SAN 6.1、GRID vGPU、Virtual Volumes などの Horizon 7 の機能を利用するには、vSphere 6.0 およびそれ以降のパッチリリースをインストールしてください。
- 今回のリリースにアップグレードするときは、『View アップグレード』ドキュメントに記載されているように、Horizon Agent をアップグレードする前に、ポッドにあるすべての Connection Server インスタンスをアップグレードしてください。
- フレッシュ インストールを実行するか、すべての Connection Server を Horizon 7 バージョン 7.2 以降にアップグレードした後は、LDAP データの保護に使用されるキーが変更されたため、Horizon 7 バージョン 7.2 より前のバージョンに Connection Server インスタンスをダウングレードすることはできません。  
Horizon 7 バージョン 7.2 以降へのアップグレードを計画するときに、Connection Server インスタンスをダウングレードする可能性がある場合には、アップグレードの開始前に LDAP のバックアップを実行する必要があります。Connection Server インスタンスをダウングレードする場合は、すべての Connection Server インスタンスをダウングレードし、最後にダウングレードした Connection Server に LDAP のバックアップを適用する必要があります。
- このリリースの Horizon Agent のビルド番号が [プログラムの追加と削除] パネルの [バージョン] 列に表示されません。[VMware Horizon Agent] をクリックすると、下のパネルのコメント セクションに製品のビルド番号が表示されます。
- このリリースのダウンロード ページには、VADC (View Agent Direct-Connection) を使用して HTML Access をサポートする Web サーバの静的なコンテンツを提供する Horizon View HTML Access Direct-Connection

ファイルがあります。HTML Access の VADC 向けのセットアップの詳細については、『View Agent Direct Connection プラグイン管理』ドキュメントの「[HTML Access のセットアップ](#)」を参照してください。

- Horizon Agent のインストールで [スキャナ リダイレクト] セットアップ オプションを選択すると、ホスト統合率に大きな影響を与えることがあります。ホスト統合を最適にするには、必要とするユーザーに対してのみ [スキャナ リダイレクト] セットアップ オプションが選択されるようにします。（デフォルトでは、Horizon Agent のインストール時に [スキャナ リダイレクト] オプションは選択されていません）。スキャナ リダイレクト機能を必要とするユーザーの場合は、個別のデスクトップ プールを設定し、そのプールでのみセットアップ オプションを選択します。
- Horizon 7 では、TLSv1.1 および TLSv1.2 のみが使用されます。FIPS モードでは TLSv1.2 のみが使用されず、vSphere パッチを適用していない場合は、vSphere に接続できないことがあります。TLSv1.0 を再度有効にする情報については、『View アップグレード』ドキュメントの、「[Connection Server から vCenter 接続で TLSv1 を有効にする](#)」および「[View Composer から vCenter および ESXi 接続で TLSv1 を有効にする](#)」を参照してください。
- FIPS モードは、6.2 より前のリリースではサポートされません。Windows で FIPS モードを有効にし、Horizon Composer または Horizon Agent を Horizon View 6.2 より前のリリースから Horizon 7 バージョン 7.2 以降にアップグレードすると、FIPS モード オプションが表示されません。Horizon 7 バージョン 7.2 以降を FIPS モードでインストールする代わりに、フレッシュ インストールを実行する必要があります。
- Linux デスクトップは、VMware Blast 表示プロトコル向けにポート 22443 を使用します。
- Horizon 7 バージョン 7.2 以降では、Connection Server で暗号化スイートの順序付けを適用することができます。詳細については、『View セキュリティ』を参照してください。
- Horizon 7 バージョン 7.2 から、Connection Server が同じポッド内の他の Connection Server との通信にポート 32111 を使用します。インストールまたはアップグレードでこのトラフィックがブロックされると、インストールが失敗します。
- Horizon 7 バージョン 7.3.1 から、ポート 443 の TLS ハンドシェイクが 10 秒以内に完了します。スマートカード認証が有効な場合には、100 秒以内に完了します。以前のリリースの Horizon 7 では、どの状況でもポート 443 の TLS ハンドシェイクに 100 秒が許可されました。handshakeLifetime 設定プロパティを使用すると、ポート 443 の TLS ハンドシェイクの時間を調整できます。TLS ハンドシェイクに時間がかかるクライアントをブラックリストに自動的に追加することもできます。ブラックリストにあるクライアントからの新しい接続は、処理が開始するまでに一定期間延期され、他のクライアントからの接続が優先されます。この延期期間は変更可能です。この機能を有効にするには、secureHandshakeDelay 設定プロパティを使用します。設定プロパティの詳細については、『View セキュリティ』ドキュメントを参照してください。

## 利用可能な言語

Horizon Administrator ユーザー インターフェイス、Horizon Administrator オンライン ヘルプ、Horizon 7 製品ドキュメントは、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語でご利用いただけます。詳細については、[VMware Horizon 7 ドキュメント センター](#)を参照してください。

## 互換性に関する注意

- シングル ユーザー マシンおよび RDS ホストの Horizon Agent でサポートされるゲスト オペレーティング システムについては、VMware のナレッジベースの記事 KB2150295「[Supported Windows Versions for Remote Desktop Systems for Horizon Agent](#)」を参照してください。
- 6.2 より前のバージョンの View Agent を使用する Horizon 7 サーバを使用する場合は、PCoIP 接続向けに TLSv1.0 を有効にする必要があります。バージョン 6.2 よりも古い View Agent では、PCoIP 向けのセキュリティ プロトコル TLSv1.0 のみがサポートされます。Connection Server およびセキュリティ サーバを含め、Horizon 7 サーバではデフォルトで TLSv1.0 が無効になっています。VMware のナレッジベースの記事 KB2130798「[Configure security protocols for PCoIP for Horizon 6 version 6.2 and later, and Horizon Client 3.5 and later](#)」の操作手順に従って、これらのサーバの PCoIP 接続で TLSv1.0 を有効にできます。
- Horizon Agent でサポートされる Linux ゲスト OS については、『Horizon 7 for Linux デスクトップのセットアップ』ドキュメントの「[Horizon 7 for Linux のシステム要件](#)」を参照してください。

- Connection Server、セキュリティ サーバ、View Composer でサポートされるゲスト OS については、『View のインストール』ドキュメントの「[サーバ コンポーネントのシステム要件](#)」を参照してください。
- Horizon 7 機能は、このリリースで更新された一連の Horizon Client で強化されています。たとえば、VMware Blast Extreme の接続には Horizon Client 4.0 以降が必要です。サポートされる Horizon Client については、[VMware Horizon Client ドキュメント](#) ページを参照してください。
- インスタント クローン機能には vSphere 6.0 Update 1 以降が必要です。
- Windows 7 および Windows 10 ではインスタント クローンがサポートされますが、Windows 8 または Windows 8.1 ではサポートされません。
- Horizon 7 と vSphere の現在のバージョンおよび以前のバージョンとの互換性については、『[VMware 製品の相互運用性マトリックス](#)』を参照してください。
- サポートされる Active Directory Domain Services (AD DS) ドメイン機能レベルについては、『View のインストール』ドキュメントの「[Active Directory の準備](#)」を参照してください。
- Horizon Administrator でサポートされるブラウザなどのシステム要件については、『View のインストール』ドキュメントを参照してください。
- RFC 7465 の「Prohibiting RC4 Cipher Suites」、RFC 7568 の「Deprecating Secure Sockets Layer Version 3.0」、PCI-DSS 3.1 の「Payment Card Industry (PCI) Data Security Standard」、および SP800-52r1 の「Guidelines for the Selection, Configuration, and Use of Transport Layer Security (TLS) Implementations」に従い、Horizon 7 コンポーネントでは RC4、SSLv3、TLSv1.0 がデフォルトで無効になっています。Connection Server、セキュリティ サーバ、View Composer または Horizon Agent マシンの RC4、SSLv3 または TLSv1.0 を再度有効にする必要がある場合には、『View セキュリティ』ドキュメントの「[View で無効化された古いプロトコルと暗号化方式](#)」を参照してください。
- PCoIP 接続用に PCoIP Secure Gateway (PSG) がデプロイされている場合、バージョン 4.0 以降のゼロ クライアント ファームウェアが必要です。
- クライアント ドライブ リダイレクト (CDR) を使用しているときは、Horizon Client 3.5 以降と View Agent 6.2 以降をデプロイし、CDR データが暗号化仮想チャネル経由で外部クライアント デバイスから PCoIP セキュリティ サーバ、およびセキュリティ サーバからリモート デスクトップに送信されるようにします。これより古いバージョンの Horizon Client または Horizon Agent を展開した場合、PCoIP セキュリティ サーバへの外部接続は暗号化されますが、企業ネットワーク内でセキュリティ サーバからリモート デスクトップに送信されるデータは暗号化されません。Active Directory で Microsoft リモート デスクトップ サービス グループ ポリシーを設定すると、CDR を無効にできます。詳細については、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』ドキュメントの「[クライアント ドライブ リダイレクトへのアクセスの管理](#)」を参照してください。
- Horizon Agent インストーラの [USB リダイレクト] セットアップ オプションは、デフォルトでは選択解除されています。USB リダイレクト機能をインストールするには、このオプションを選択する必要があります。USB リダイレクトを安全に使用するためのガイダンスについては、『View セキュリティ』ドキュメントの「[安全な View 環境での USB デバイスの展開](#)」を参照してください。
- グローバル ポリシーのマルチメディア リダイレクト (MMR) はデフォルトで拒否に設定されます。MMR を使用するには、Horizon Administrator を開いてグローバル ポリシーを編集し、この値を明示的に許可に設定します。MMR へのアクセスを制御するために、グローバルに、または個々のプールまたはユーザーに対してマルチメディア リダイレクト (MMR) ポリシーを有効または無効にできます。マルチメディア リダイレクト (MMR) データは、アプリケーション ベースの暗号化なしでネットワークを介して送信され、リダイレクトされる内容によっては機密データが含まれる場合があります。このデータがネットワークで盗まれないようにするには、安全なネットワークで MMR だけを使用してください。
- Horizon Administrator で透過的なページ共有 (TPS) のレベルを設定する前に、セキュリティに与える影響について理解しておくことをお勧めします。ガイダンスについては、VMware ナレッジベース (KB) の記事 2080735、「[セキュリティの考慮事項および仮想マシン間透過的なページ共有の禁止](#)」を参照してください。
- vSphere 5.5 以降の環境で View Storage Accelerator を使用するには、デスクトップ仮想マシンは 512GB 以下でなければなりません。View Storage Accelerator は、512GB を超える仮想マシンでは無効になります。仮想マシンのサイズは、合計 VMDK 容量で定義されます。たとえば、1 つの VMDK ファイルが 512GB であるか、複数の VMDK ファイルの合計が 512GB となる場合です。この要件は、以前の vSphere リリースで作成され、vSphere 5.5 にアップグレードされた仮想マシンにも適用されます。
- Horizon 7 は vSphere Flash Read Cache (旧名は vFlash) をサポートしません。

- Horizon (with View) バージョン 6.0 以降のリリースの場合、View PowerCLI cmdlets Get-TerminalServer、Add-TerminalServerPool、および Update-TerminalServerPool は非推奨になっています。
- vSphere 6.0 以降で作成された仮想マシンでは、デフォルトで画面の DMA が無効になっています。View では画面の DMA を有効にする必要があります。画面の DMA が無効になっている場合、ユーザーがリモートデスクトップに接続すると画面が黒く表示されます。Horizon 7 でデスクトップ プールがプロビジョニングされる時、プール内の vCenter Server の管理対象となるすべての仮想マシンについて、画面の DMA が自動的に有効になります。ただし、Horizon Agent が管理対象外モード (VDM\_VC\_MANAGED\_AGENT=0) で仮想マシンにインストールされる場合、画面の DMA は有効になりません。画面の DMA を手動で有効にする方法については、VMware ナレッジベース (KB) の記事 2144475、「[仮想マシンで画面の DMA を手動で有効にする](#)」を参照してください。
- vSphere 2016 以降では、vGPU 対応のインスタント クローン デスクトップ プールがサポートされます。
- Microsoft Windows Server では、Horizon 7 環境のすべての Connection Server 間で、動的なポート範囲を指定して、ポートを開く必要があります。Microsoft Windows では、これらのポートはリモート プロシージャコール (RPC) および Active Directory レプリケーションの通常の動作で必要になります。動的ポート範囲の詳細については、『Microsoft Windows Server』のドキュメントを参照してください。
- Horizon 7 バージョン 7.2 以降の viewDBChk ツールは、vCenter Server または View Composer の認証情報にアクセスできません。この情報が必要な場合、プロンプトが表示されます。
- このリリースでは、Connection Server インスタンスとセキュリティ サーバが受信した HTTP 要求の転送ルールが変更されました。locked.properties にカスタム frontMapping エントリを定義している場合には、このエントリを削除してからアップグレードしてください。特定の Connection Server インスタンスに対する管理者接続を許可しない場合には、カスタム frontMapping エントリを定義せずに、このエントリを locked.properties に追加してください。

```
frontServiceWhitelist =
tunnel|ajp:broker|ajp:portal|ajp:misc|moved:*|file:docroot
```

セキュリティ サーバでは、このエントリが自動的に適用されるので、locked.properties に設定する必要はありません。

- Horizon Azure で仮想印刷がサポートされます。

## サポートされている Windows 10 オペレーティング システム

サポートされる Windows 10 オペレーティング システムの最新のリストについては、VMware のナレッジベースの記事 KB2149393「[Supported Versions of Windows 10 on Horizon View](#)」を参照してください。

Windows 10 オペレーティング システムのアップグレード要件の詳細については、VMware のナレッジベースの記事 KB2148176「[Upgrade Requirements for Windows 10 Operating Systems](#)」を参照してください。

## Red Hat Enterprise Linux Workstation のサポート

Horizon Agent for Linux は、Red Hat Enterprise Linux Workstation を実行するシステムへのインストールをサポートします。Red Hat Enterprise Linux サーバはサポートされていません。

『[Horizon 7 for Linux デスクトップのセットアップ](#)』で、Red Hat Enterprise Linux と RHEL はすべて Red Hat Enterprise Linux Workstation を意味します。

Red Hat Enterprise Linux Workstation のサポート対象バージョンについては、[Horizon 7 for Linux のシステム要件](#)を参照してください。

## Horizon 7 の以前のリリース

以前のリリースで導入された機能は、各リリースのリリース ノートに既存の既知の問題と一緒に記載されています。

## 解決した問題

- 「ネットワーク共有にログをアップロードする」グループ ポリシーが有効になっている場合でも、ユーザーがログオフする前に個人設定管理ログ ファイルがローテーションされ、ファイルがネットワーク共有にアップロードされません。
- リモート プロファイルのロードを有効にするのに、デフォルトの 15 秒よりも時間がかかり、クライアント ドライブ リダイレクト (CDR) の初期化に失敗しました。この問題は修正されました。VDI セッションを起動してログインすると、クライアントのツールバーと CDR のネットワーク ドライブで共有フォルダ オプションを使用できます。リダイレクトされるすべてのドライブにアクセスできます。
- Horizon Agent と Horizon Connection Server は、CVE-2016-7804 のセキュリティ問題を解決するため、7-Zip をバージョン 16.04 に更新しました。
- Connection Server がインストールされている仮想マシンに 2 つの NIC が構成されている場合、Horizon 7 バージョン 7.2 のイベントが Microsoft SQL データベースに書き込まれません。
- PCoIP プロトコルを使用するアプリケーション セッションで、マウス ポインタが砂時計のままになります。
- ネストされた Active Directory 組織単位 (OU) に Horizon 7 と同じ名前が含まれている場合、この組織単位を使用できません。
- アクセス グループの作成制限が 100 から 200 に変更されました。
- Horizon Persona Management が設定されているデスクトップ プールで、GPO 設定に指定した壁紙がデスクトップに適用されません。
- CEIP が無効のときに、レプリカ サーバを 7.2 から 7.3 にアップデートすると、アップデートに失敗します。
- vCenter Server が CA で署名された証明書を使用している場合、7.3 にアップグレードした後でプールの自動プロビジョニングを行うと、新しい仮想マシンのプロビジョニングに失敗します。
- VSAN 6.6.1 を使用しているときに、プールの自動プロビジョニングが停止する場合があります。この問題を解決するには、ESXi 6.5 Express パッチ 4 を使用してください。

## 既知の問題

既知の問題には次のトピックが含まれます。

- [Horizon Persona Management](#)
- [View Composer](#)
- [Horizon Connection Server](#)
- [Horizon Agent for Linux](#)
- [Horizon Agent](#)
- [Horizon GPO Bundle](#)
- [Horizon Client](#)

### Horizon Persona Management

- Horizon Persona Management では、デスクトップ仮想マシンのディスク容量が非常に少なくなっている場合、ユーザーの個人設定が中央リポジトリに正しくレプリケートされない可能性があります。

- 個人設定管理を使用すれば、グループ ポリシー設定を使用して、ユーザー プロファイル フォルダをネットワーク共有にリダイレクトできます。フォルダがリダイレクトされると、ユーザー セッション中にすべてのデータがネットワーク共有に直接保存されます。Windows のフォルダ リダイレクトには [ユーザーに folder-name に対する排他的権限を与える] というチェックボックスがあり、リダイレクトされるフォルダにユーザー固有の排他的権限を与えます。セキュリティ対策のため、このチェックボックスはデフォルトで選択されています。このチェックボックスを選択すると、管理者はリダイレクトされたフォルダにアクセスできません。管理者がユーザーのリダイレクトされたフォルダに対するアクセス権を強制的に変更しようとすると、そのユーザーに対して個人設定管理が機能しなくなります。

回避策：VMware ナレッジベース (KB) の記事 2058932、「[View Persona Management のためにリダイレクトされたフォルダへのアクセスをドメイン管理者に与える](#)」を参照してください。

- 個人設定管理は、RDS ホストで実行されているセッションベースのデスクトップ プールではサポートされません。

回避策：シングルユーザー マシンで実行される自動または手動のデスクトップ プールに個人設定管理をインストールします。

- ログインした後に毎回、「v6」バージョンのユーザー プロファイルを使用するゲスト OS で、最初のユーザー個人設定を個人設定管理がレプリケートするのに時間がかかります。
- Windows 8 デスクトップでは、View Persona Management 設定である [ログオフ時にローカルの個人設定を削除] を有効にした場合に、ユーザーが PDF ファイルを作成し、デスクトップをログオフして再びログインすると、ユーザーはオフラインの PDF ファイルを開くことができなくなります。Windows 8 Reader がオフライン PDF コンテンツをダウンロードできなくなるためです。

回避策：ファイルを右クリックして手動でダウンロードし、[プロパティ] を選択するか、[Adobe Reader で開く] を選択します。

- 個人設定プロファイルを使用して Windows 10 LTSB マシンにログインし、クイック アクセスから Downloads や My Documents などの制限付きのフォルダにアクセスすると、次のエラーが発生します。

C:\Users\vdiuser7\Downloads を使用できません。フォルダを追加する API やクイック アクセス用のファイルは Microsoft から提供されていません。

回避策：なし

## View Composer

- 何千ものデスクトップを含むリンク クローン プールを Horizon Administrator がプロビジョニングすると、いくつかのマシン (1,000 台あたり 1 ~ 2 台) が失敗し、「カスタマイズがタイムアウトになりました」というエラーが表示される場合があります。自動リカバリが有効の場合は (実稼動環境の推奨設定)、エラーが発生したマシンが自動的に再作成され、プロビジョニングされます。回避策は必要ありません。

回避策：自動リカバリが無効の場合は、Horizon Administrator で、エラーが発生したマシンを手動で削除します。Horizon Administrator は、通常のプール管理の一環として新しいマシンをプロビジョニングします。

- 大規模なデスクトップ プールを削除するときに、.hlog ファイルを含む多くのフォルダと .sdd.sf という名前の空のサブフォルダが削除されずに残ります。

回避策：削除操作の後に残ったフォルダを手動で削除します。手順については、VMware のナレッジベースの記事 KB2108928「[Rebalance operation leaves VM folders in previous data stores](#)」の解決策を参照してください。

- IDE コントローラを備えた仮想マシンを Windows XP から Windows 7 へアップグレードする場合、仮想マシンのスナップショットを作成し、リンク クローン プールを作成すると、リンク クローンがカスタマイズできず、プールが作成できません。

回避策：SCSI コントローラとディスクを仮想マシンに追加します。次に VMware Tools を起動し、仮想マシンに VMware SCSI コントローラ ドライバをインストールします。スナップショットを作成して、リンク クローン プールを作成します。

- Sysprep でカスタマイズされたリンク クローン デスクトップをプロビジョニングする場合、一部のデスクトップではカスタマイズされないことがあります。

回避策：デスクトップを更新します。それでも一部のデスクトップがカスタマイズできない場合、再度更新します。

- 親の仮想マシンで VMware View Composer Guest Agent Server サービスのログイン アカウントを変更しないでください。デフォルトでは、これはローカル システム アカウントです。このアカウントを変更すると、この親から作成されたリンク クローンは起動しなくなります。
- デスクトップ プールのプロビジョニングが失敗して、次のエラー メッセージが表示されます。「**ポーリング処理のエラー**: View Composer Server <https://machine-name:18443> に接続できません: java.net.ConnectException: 接続が拒否されました: 接続。)」  
**回避策**: VMware vCenter Server サーバを再起動してから、デスクトップ プールを再度プロビジョニングします。
- 最新の Windows 更新が適用された Windows Server 2016 で、コマンド ラインから View Composer インストーラを実行すると、Microsoft .NET 4.6 Framework エラーが発生します。CLI インストーラが Microsoft .NET 4.7 の最新バージョンを認識できないため、この問題が発生します。  
**回避策**: View Composer インストーラのインターフェイスを使用して、インストーラを実行します。
- リンク クローン プールが vSphere 5.5 仮想マシンで構成されている場合、View Composer 再調整操作は FileAlreadyExists エラーで失敗する場合があります。この問題は、View Composer デスクトップ プールで OS ディスクとユーザー データ ディスクに異なるデータストアが使用され、View Composer 再調整操作の実行前にユーザー データ ディスク用に選択されていたデータストアが変更された場合に限って発生します。  
**回避策**: FileAlreadyExists エラーがあるリンク クローン デスクトップから通常ディスクを切り離します。後で、アーカイブしたディスクを新しい仮想マシンに接続してリンク クローン デスクトップを再作成するか、セカンダリ ディスクとして既存のリンク クローン デスクトップに接続できます。OS ディスクとユーザー データ ディスクを同じデータストアに保持するか、View Composer 再調整操作の前にデータストアの選択を変更しないことにより、この問題の発生を回避できます。
- 一部の Virtual Volumes ストレージ アレイでは、View Composer リンク クローンのプロビジョニングが失敗します。次のメッセージが表示されます。「Error creating disk Error creating VVol Object.This may be due to insufficient available space on the datastore or the datastore's inability to support the selected provisioning type. (ディスク作成中にエラーが発生しました。VVol オブジェクトを作成中にエラーが発生しました。原因として、データストアの空き容量が不足しているか、選択されたプロビジョニング タイプをデータストアでサポートできないことが考えられます)」View Composer は、他のすべてのリンク クローン ディスクがシン プロビジョニングを使用している場合でも、シックプロビジョニング形式で小さな内部ディスクを作成します。この問題は、サードパーティの Virtual Volumes ストレージ アレイがデフォルトではシックプロビジョニングされたディスクをサポートしていない場合に発生します。  
**回避策**: Virtual Volumes でシックプロビジョニングされたディスクを作成できるようにするには、ストレージ アレイ上のシック プロビジョニングを有効にします。
- Virtual SAN データストア上に保存されている View Composer 通常ディスクを接続するか再作成すると、vCenter Server の仮想ディスクのストレージ ポリシーは「期限切れ」として表示されます。元のストレージ プロファイルは保持されません。  
**回避策**: vSphere Web Client で、ストレージ ポリシーを仮想ディスクに再適用します。
- Windows 8.x リンク クローン仮想マシンに領域再利用を実行したとき、システム処理可能ディスクとユーザー通常ディスクのサイズが最大容量まで増えることがあります。この領域増加は、最初の領域再利用を完了したときにのみ発生します。OS ディスクに関しては、容量の再利用は期待どおりに動作し、未使用領域を再利用します。この問題は、システム処理可能ディスクとユーザー通常ディスクを使用しない View Composer デスクトップに影響を与えません。  
**回避策**: Windows 8 または 8.1 仮想マシンで View Composer デスクトップを構成し、領域再利用を有効にすると、システム処理可能ディスクまたはユーザー通常ディスクを構成しません。
- Windows 10 オペレーティング システムのビルド 1511 からビルド 1607 に親仮想マシンをアップグレードすると、デスクトップ プールの作成や再構成が失敗します。ビルド 1607 は、Windows 10 Anniversary Update オペレーティング システムです。  
**回避策**:
  - オプション 1. 親仮想マシンで Windows 10 ビルド 1607 を新規にインストールします。
  - オプション 2. デスクトップ プール作成ウィザードで [ディスパーザブル ファイルをリダイレクトする] を選択しないでください。

- 通常ディスクを使用して再構成、更新、または再調整操作を行った後、Windows 10 バージョン 1511 デスクトップが起動に失敗するか、[スタート] メニューに表示されなくなる場合があります。Windows アプリケーションには、Windows ストア、ネイティブ アプリケーション、Edge ブラウザ、Cortana 検索などのアプリケーションが含まれます。バージョン 1607 CBB/LTSB 以降には、この問題の影響はありません。この問題は、次のデスクトップ タイプに影響します。
  - 通常ディスクにアプリケーションの設定を保存している専用リンク クローンのデスクトップ。
  - 通常ディスクをローカル ディスクとして使用し、個人設定管理の[ローカル設定フォルダを移動]が有効になっている個人設定管理が有効なリンク クローン フローティング デスクトップ。
  - この問題は、フローティングまたは専用リンク クローンのデスクトップ プールでは発生しません。このデスクトップ プールでは、個人設定管理が有効または無効でもユーザー プロファイルがネットワーク共有にリダイレクトされます。個人設定管理が有効になっている場合、ユーザー プロファイルは VMware Persona GPO 設定を使用して移動するように設定されます。
  - この問題は、My Documents と Exchange 365 .pst/ost ファイルのみを保持している通常ディスクまたは個人設定管理では発生しません。
- Virtual SAN データストアには、Virtual SAN クラスタに属するホストからのみアクセスできます。別のクラスタに属するホストからはアクセスできません。そのため、1 つの Virtual SAN データ ストアから別のクラスタ内の別の Virtual SAN データ ストアにプールを再分散することはできません。
- ONTAP 8.2.x 以前を実行している NetApp ストレージ システムに常駐している Virtual Volumes データ ストア上に作成された、大規模な仮想デスクトップ プール（たとえば、2,000 台の デスクトップ） 環境では、「VVol ターゲットでベンダー固有のエラーが発生しました」というエラーメッセージが表示され、少数のデスクトップの再設定に失敗することがあります。  
 回避策：NetApp ストレージ システムを ONTAP 8.3 以降にアップグレードします。
- NVIDIA GRID vGPU を使用するように設定された View Composer デスクトップ プールまたはインスタント クローン デスクトップ プールに基づいた仮想マシンのプロビジョニングが失敗し、次のエラーが表示されます：操作のために親リソース プールで利用可能なグラフィック リソースが不足しています。  
 回避策：クラスタ内の 3D レンダリングのために設定されたすべての仮想デスクトップに対して単一の vGPU プロファイルを使用します。  
 複数の vGPU プロファイルが必要な場合は、複数のクラスタ トポロジを設計し、各クラスタには同じプロファイルをもつ仮想マシンのみが含まれるようにします。  
 Horizon 7 でのエラー メッセージを解決するには、失敗したデスクトップ プールを削除する必要があります。各クラスタにどの vGPU プロファイルを使用するかを決定し、正しい vGPU プロファイルがないプールをクラスタから削除し、正しいクラスタ内でその vGPU プロファイルのプールを再度作成します。
- Windows 8.1 デスクトップの再構成中、Sysprep のカスタマイズが失敗し、「カスタマイズ操作がタイムアウトしました」というエラー メッセージが表示される場合があります。この問題は、使用されていない機能を削除することによってディスク領域を確保する Windows 8.1 の計画されたメンテナンス作業によって発生します。  
 回避策：次のコマンドを使用して、セットアップ完了直後にメンテナンス作業を無効にしてください。  

```
Schtasks.exe/change /disable /tn"\Microsoft\Windows\AppxDeploymentClient\Pre-staged appcleanup"
```
- vSAN クラスタで、vSAN データストアから VMFS6 ファイル システムの非 vSAN データストアへの再調整操作が失敗します。  
 回避策：なし。
- viewdbchk.cmd -findMachine コマンドを実行すると、View Composer に接続できません。  
 回避策：View Composer の自己署名証明書を Connection Server のキーストアにインポートするか、カスタム CA 証明書を使用します。

## Horizon Connection Server

- vSphere 5.5 以降のリリースにアップグレードする場合、vCenter Server ユーザーとして使用するドメイン管理者アカウントが、vCenter Server のローカル ユーザーによって vCenter Server にログインするために明示的に指定された権限であったことを確認してください。
- インスタントクローンのデスクトップ プールをプロビジョニングしているときにデータ ストアに十分な

空き容量がない場合、Horizon Administrator には「仮想マシン <仮想マシン名> のクローン作成が失敗しました - VC\_FAULT\_FATAL: スワップ ファイルを 0 KB から 2097152 KB に拡張できませんでした。」というエラー メッセージが表示されます。このメッセージは問題の根本原因を明確に示していません。

回避策：不要。

- Horizon Administrator で、[カタログ] > [デスクトップ プール] の順に移動してインスタントクローン デスクトップ プールをダブルクリックし、[インベントリ] タブに移動して[マシン（インスタント クローンの詳細）] をクリックすると、ウィンドウにインスタント クローンの詳細が表示されます。ただし、OS ディスク データ ストアの列には情報が表示されません。

回避策：なし

- 大規模な環境では、インスタントクローン デスクトップ プールのデスクトップの一部が無効な IP 状態になることがあります。

回避策：Horizon Administrator で、[プール インベントリ] に移動し、[無効な IP] 状態のデスクトップを選択して[リカバリ] をクリックします。

- vCenter Server のデスクトップ プールにエンド ユーザー セッションが存在する仮想マシンを再起動すると、仮想マシンが再起動されますが、仮想マシンのステータスが Horizon Administrator で[すでに使用されています] と表示される場合があります。

この問題は、次のプール タイプで発生する場合があります。

- インスタントクローン デスクトップ プール
- [ログオフ時に削除] が有効なリンククローン フローティング デスクトップ プール。
- [ログオフ時に更新] が有効なリンククローン フローティング デスクトップ プール。
- [ログオフ時に削除] が有効なフル クローン フローティング デスクトップ プール。

回避策：Horizon Administrator または Horizon Client を使用して、デスクトップ プール内の仮想マシンを再起動します。仮想マシンが[すでに使用されています] の状態になっている場合は、仮想マシンを削除します。この操作では、プール プロビジョニング設定に基づいて新しい仮想マシンが自動的に作成されます。

- 組織単位 (OU) またはサブ OU の名前に特殊文字「\」が含まれている場合、インスタント クローン デスクトップ プールの作成に失敗します。

回避策：インスタント クローンを作成するときに、OU またはサブ OU の名前から「\」を削除します。

- ローカル データストアにインスタント クローンをプロビジョニングする場合、該当するホストをメンテナンス モードに切り替えることができません。移行されないように内部仮想マシンとインスタント クローンがローカル データストアに格納されているため、この問題が発生します。

回避策：インスタントクローン デスクトップ プールを削除します。これにより、関連する仮想マシンが削除され、対応するホストをメンテナンス モードに切り替えることができます。

- インスタントクローンの親仮想マシンがパワーオン状態のホストに存在すると、VUM を使用する ESXi ホストの修正が失敗します。

回避策：詳細については、VMware のナレッジベースの記事 KB2144808「[Entering and exiting maintenance mode for an ESXi host that has Horizon instant clones](#)」を参照してください。

- このリリースでは、Windows ユニバーサル アプリケーションはホスト型リモート アプリケーションとしてサポートされません。たとえば、ユニバーサル アプリケーションは Windows Server 2016 RDS ファームにより提供されるアプリケーションのリストに表示されません。Windows 10 に含まれる Edge ブラウザや Calculator などの ユニバーサル アプリケーション、または Windows Server 2016 RDS ホストは、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) 上に構築されています。ユニバーサル アプリケーションは、Windows エクスプローラで実行する必要があります。さらに、コマンド プロンプトからユニバーサル アプリケーションを手動で起動すると、エラー メッセージが表示されます。

- RDS ロールが有効な Windows Server 2012 親仮想マシンから、自動化されたファームをデプロイすると、デプロイされたリンク クローン仮想マシンで Sysprep カスタマイズが失敗します。このサードパーティの問題は、RDS ロールが有効な他のバージョンの Windows Server では発生しません。

回避策：<https://support.microsoft.com/en-us/kb/3020396> で入手可能な Microsoft ホットフィックスを Windows Server 2012 親仮想マシンに適用します。

- True SSO のため、Connection Server インスタンスと登録サーバの間の接続ステータスは、Horizon Administrator にアクセスするために使用している Connection Server のシステム健全性ステータス ダッシュボードにのみ表示されます。たとえば、Horizon Administrator

に `https://server1.example.com/admin` を使用している場合、登録サーバの接続ステータスは `server1.example.com Connection Server` についてのみ収集されます。次のメッセージのいずれかが表示されることがあります。

- この Connection Server でのセッションを管理するためにプライマリ登録サーバと通信できません。

- この Connection Server でのセッションを管理するためにセカンダリ登録サーバと通信できません。

登録サーバ 1 つをプライマリとして構成する必要があります。セカンダリ登録サーバの構成はオプションです。登録サーバが 1 台のみの場合、最初のメッセージ（エラー）のみが表示されます。プライマリとセカンダリの登録サーバがあり、両方に接続の問題が発生している場合は、両方のメッセージが表示されます。

- それぞれに異なるテンプレートがセットアップされた CA と SubCA を含む環境で真の SSO をセットアップするときは、CA または SubCA からのテンプレートと別の CA または SubCA の組み合わせを使用して真の SSO を構成できます。その結果、ダッシュボードには真の SSO のステータスが緑色で表示されることがあります。ただし、真の SSO を使用しようとするとう失敗します。
- Firefox ブラウザから Horizon Administrator を使用するとき、韓国語 IME (Input Method Editor) を使用してテキスト フィールドにハングル文字を入力する場合、ハングル文字が正しく表示されません。この問題は Firefox のみで発生します。これはサードパーティの問題です。  
回避策：別のブラウザを使用します。引き続き Firefox を使用するのであれば、ハングル文字を 1 文字ずつ入力します。
- Connection Server インスタンスで Blast Secure Gateway (`absg.log`) のログ レベルを Info から Debug に変更しても、ログ レベルは Info のままになります。(Connection Server インスタンスの **View Connection Server** ログ レベルの設定を開き、`absg` ログ レベルを変更し、VMware View Blast Secure Gateway サービスを再起動して、ログ レベルを変更します。) Debug から Info へのログ レベルの変更は、正常に機能します。  
回避策：なし。
- イベント データベースのシステム健全性ステータスが、「存在しないか、権限がないため、'VE\_user\_events' 表示をドロップできません」というエラー メッセージと一緒に、Horizon Administrator のダッシュボードに赤色で表示されることがまれにあります。この状態は実際のエラーを示すものではなく、問題はしばらくたってから自動的に解決されます。  
回避策：なし。
- F5 または [更新] ボタンを使用して Horizon Help Desk Tool を更新したときに、Web ページに Horizon Help Desk Tool のアイコンが表示されず、STRING\_ID 問題が発生する場合があります。  
回避策：Horizon Help Desk Tool からログアウトし、ログインします。
- Horizon Administrator でヘルプ デスク アイコンをクリックすると、Horizon Help Desk Tool へのシングル サインオンが失敗します。この問題は、Active Directory に UPN が存在しない場合に発生することがあります。  
回避策：ユーザー名とパスワードを使用して Horizon Help Desk Tool にログインします。
- セッションがローカル セッションか、ローカル ポッドで実行されている場合、Horizon Help Desk Tool にポッド名が表示されません。  
回避策：Horizon Help Desk Tool にポッド名が表示されるように、クラウド ポッド アーキテクチャ環境を設定します。
- Horizon Help Desk Tool へのログインで、ユーザー名を大文字と小文字を区別せずに使用すると、ログインが失敗します。  
回避策：ユーザー名を大文字と小文字を区別して入力し、Horizon Help Desk Tool にログインします。
- Workspace ONE のレプリカ サーバでは、Workspace ONE モードの設定は反映されません。  
回避策：Connection Server で Workspace ONE モードを設定します。
- デスクトップ プールの展開で親またはテンプレートとして使用する仮想マシンに NVIDIA ドライバがインストールされている場合、この仮想マシンを ESXi ホストの非 NVIDIA GRID ハードウェアに展開すると、デスクトップ セッションを正常に開始できない場合があります。この問題は、仮想マシンが以前 NVIDIA GRID vGPU の展開で使用されていた場合に起きる場合があります。

回避策：仮想マシンから NVIDIA ドライバを削除した後、スナップショットまたはテンプレートを作成して、デスクトップ プールをデプロイします。

- フル クローン デスクトップ プールを作成すると、キャッシュの問題により、不正なテンプレートが表示され、有効なテンプレートが表示されない場合があります。

回避策：Connection Server を再起動します。

- vdmutil コマンドで URL コンテンツ リダイレクトの設定を作成する場合、url-filtering 設定の名前を指定する必要があります。設定名が url-filtering でないと、リダイレクトは実行されません。例：

```
vdmutil --createUrlSetting --urlSettingName url-filtering --urlScheme http --entitledApplication iexplore2012 --agentURLPattern "http://google.*"--urlRedirectionScopeLOCAL --authAs johndoe --authDomain mydomain --authPasswordsecret
```

- このリリースでは、複数の URL コンテンツ リダイレクト設定を作成することを推奨しません。
- ハードウェア バージョン 8 の仮想マシンでは、使用可能な最大ビデオ RAM は 128MB です。ハードウェア バージョン 9 以降の仮想マシンでは、許可される最大ビデオ RAM は 512MB です。仮想マシンのハードウェア バージョンのビデオ RAM 制限を超える値を Horizon Administrator から設定すると、vSphere Client の [Recent Tasks] 画面にエラーが表示され、設定操作がループします。この問題は、vSphere Client からではなく、Horizon Administrator（プール設定ページ）からビデオ メモリ値を構成した場合に限って発生します。

回避策：vSphere Client の仮想マシンのハードウェア バージョンをアップグレードするか、Horizon Administrator を使用して、現在の仮想マシンのハードウェア バージョンに基づくビデオ メモリに適切な値を設定してください。
- SAML 認証を Horizon Administrator に追加しようとする、[SAML 認証子の管理] ページの [追加] ボタンが無効になります。

回避策：管理者またはローカル管理者のロールが付与されたユーザーとして Horizon Administrator にログインします。
- フローティング割り当てまたは自動化されたファームを使用して自動リンク クローン プールからマシンを削除している間、ViewDbChk ユーティリティが「通常ディスクのアーカイブ中...」というメッセージを表示する場合があります。

回避策：なし。

- Horizon Administrator ログイン中、他の Horizon 管理者によって行われたクラウド ポッド アーキテクチャ構成の変更は、現在の Horizon Administrator セッションに表示されません。

回避策：Horizon Administrator からログアウトし、再度ログインして変更を確認します。

- クラウド ポッド アーキテクチャ環境の場合、Horizon Administrator で [インベントリ] > [セッションを検索] の順に選択しても、グローバル アプリケーション資格から事前起動されたアプリケーション セッションが表示されません。

回避策：事前起動のセッション情報を確認するには、ホスティングするポッドの Connection Server インスタンスで Horizon Administrator ユーザー インターフェイスにログインし、[監視] > [イベント] の順に選択してください。

- クラウド ポッド アーキテクチャ環境で、メジャー バージョンが異なるポッドに Horizon がインストールされている場合、古いバージョンのポッドに接続すると、新しいバージョンのポッドでリモート デスクトップおよびアプリケーションを起動できなくなります。たとえば、ポッド A で Horizon 6 バージョン 6.x が実行され、ポッド B で Horizon 7 バージョン 7.x が開始している場合、ポッド A から接続すると、ポッド B のデスクトップおよびアプリケーションを実行できなくなります。

回避策：ポッド フェデレーション内のすべてのポッドに 同じ Horizon バージョンをインストールします。クラウド ポッド アーキテクチャを 6.x から 7.x にアップグレードを行う場合、すべてのポッドを同時にアップグレードする必要があります。

- 20 から 50 のクラウド ポッド アーキテクチャ グローバル アプリケーション資格が割り当てられているユーザーが、任意のバージョンの Horizon Client 経由で接続して Horizon 7 で認証を行うと、20 秒から 30 秒の遅延が発生します。  
注：Horizon 7 バージョン 7.2 では、この接続時間は若干向上しています。  
回避策：なし。
- Windows 8 以降のコンピュータで Internet Explorer 10 または 11 を使用している場合、ブラウザのロケールを繁体字中国語に設定して Horizon Administrator にログインすると、ナビゲーション パネルが簡体字中国語で表示されることがあります。  
回避策：別のブラウザを使用して Horizon Administrator にログインしてください。
- vSphere 5.1 環境で 64 ビットまたは 32 ビットの Windows 8 デスクトップをプロビジョニングすると、Sysprep カスタマイズが失敗する場合があります。デスクトップは、カスタマイズがタイムアウトしましたというエラー メッセージでエラー状態になります。この問題は、親仮想マシンまたはテンプレートでアンチウイルス ソフトウェアがインストールされている場合に発生します。この問題は、フル クローンおよびリンクされたクローン デスクトップに適用されます。この問題は QuickPrep でカスタマイズしたリンク クローン デスクトップには該当しません。  
回避策：親仮想マシンまたはテンプレートのアンチウイルス ソフトウェアをアンインストールし、プールを再作成します。
- Intel vDGA については、Haswell および Broadwell シリーズの Intel 内蔵 GPU のみがサポートされます。Broadwell 内蔵 GPU は、vSphere 6 Update 1b 以降でのみサポートされます。Haswell 内蔵 GPU は、vSphere 5.5 以降でサポートされます。GPU が ESXi に認識されるには、まず BIOS で有効にする必要があります。詳細については、特定の ESXi ホストのドキュメントを参照してください。Intel 社は、BIOS のグラフィカル メモリ設定をデフォルト値の設定のままにしておくことを推奨しています。設定を変更する必要がある場合は、アパチャーの設定をデフォルト (256M) のままにします。
- View Storage Accelerator が、大きな仮想ディスク（たとえば、100 GB の仮想ディスク）のダイジェスト ファイルを生成または再生成するのに長時間かかる場合があります。その結果、デスクトップは予想より長い時間に渡ってアクセスできなくなることがあります。  
回避策：ダイジェスト再生成操作が許可されている場合、ブラックアウト期間を使用して制御してください。また、これらの操作の頻度を削減するためにダイジェストの再作成間隔を使用してください。代わりに、非常に大きい仮想マシンが含まれるデスクトップ プールの View Storage Accelerator を無効にしてください。
- vSphere 5.5 にアップグレードした後に、領域を効率的に利用する仮想ディスクを使用し、1 台の ESXi ホストにつき 200 以上のリンク クローン仮想マシンがある場合、ヒープ サイズ エラーが発生する場合があります。例：Error:Heap seSparse could not be grown by 12288 bytes for allocation of 12288 bytes  
回避策：領域を効率的に利用する仮想ディスクを使用するリンク クローン仮想マシンの数を ESXi ホスト 1 台につき 200 未満に減らします。
- ハイブリッド vSAN 環境で約 3% の仮想マシンが View Storage Accelerator を使用しない可能性があります。これらのマシンは、起動時間が数秒長くなります。  
回避策：View Storage Accelerator を使用しなかった仮想マシンを削除してから再作成します。
- このリリースでは、Virtual Volume データストアで View Storage Accelerator はサポートされません。  
回避策：なし
- vCenter Server 6.5 を含む vCenter Server 6.0 U3 以降で エラー発生時に内部親仮想マシンが別のホストに移行されます。この移行は、ターゲット ホストに不要な親仮想マシンがある場合に発生します。  
回避策：これらの親仮想マシンを手動で削除します。詳細については、『Horizon 7 での仮想デスクトップのセットアップ』を参照してください。
- メモリ不足の可能性を低減するため、フレーム バッファが 512 MB 以下の vGPU プロファイルの場合、Windows 10 ゲスト OS でサポートされる仮想ディスプレイ ヘッドは 1 つだけです。

フレーム バッファが 512 MB 以下の vGPU プロファイルは次のとおりです。

- Tesla M6-0B、M6-0Q
- Tesla M10-0B、M10-0Q

- Tesla M60-0B、M60-0Q
- GRID K100、K120Q
- GRID K200、K220Q

回避策：複数の仮想ディスプレイ ヘッドに対応し、フレーム バッファが 1 GB 以上のプロファイルを使用します。

- クライアント制限機能が有効で、一方向の Active Directory 信頼が設定されているドメインの使用資格がある場合、公開デスクトップとアプリケーション プールが起動しません。

回避策：なし

- アップグレード後、「ファーム、デスクトップおよびアプリケーション プールを管理」（オブジェクト固有の権限）を含むロールが設定されていると、ファームの追加オプションが灰色になります。

回避策：「ファーム、デスクトップおよびアプリケーション プールを管理」権限を含むロールを編集するか、再度作成します。これにより、「グローバル構成とポリシーを管理」権限も追加されます。

- アップグレード後に、Workspace ONE にブックマークが表示されません。

回避策：Workspace ONE のカタログからブックマークを再度追加します。

## Horizon Agent for Linux

このセクションでは、Linux デスクトップの構成時または Horizon Agent for Linux で発生する可能性がある問題について説明します。

- 最大 2560x1600 画面解像度のマルチモニタ サポートの Linux 仮想デスクトップを構成する場合、サブメニュー ダイアログが開きません。
- 解像度の異なる 2 台のモニターが構成されており、1 次画面の解像度が 2 次画面よりも低い場合は、画面の特定の領域にマウスを移動したり、アプリケーション ウィンドウをドラッグしたりできないことがあります。

回避策：1 次モニターの解像度が 2 次モニターと同じかそれ以上であることを確認します。

- 2560x1600 の解像度で 4 台のモニターを vSphere 6.0 の RHEL 6.6 や CentOS 6.6 仮想マシンで構成することはサポートされていません。

回避策：2048x1536 の解像度を使用するか、この構成を vSphere 5.5 に展開します。

- vDGA 環境にある RHEL 6.6 仮想マシンで 2560x1600 の解像度の 2 台以上のモニターを構成する場合、デスクトップのパフォーマンスが低下します。たとえば、アプリケーション ウィンドウがスムーズに移動しなくなります。この問題は、RHEL のデスクトップ効果を有効にしている場合に発生します。

回避策：[System (システム)] > [Preference (環境設定)] > [Desktop Effects (デスクトップ効果)] に移動し、[Standard (標準)] を選択して、[Desktop Effects (デスクトップ効果)] を無効にします。

- [キーボード入力方法システム] が fcitx に設定されている場合、Linux エージェントのキーボード レイアウトおよびロケールはクライアントと同期しません。

回避策：[キーボード入力方法システム] を iBus に設定します。

- SSSD (System Security Services Daemon) を使用するドメインを追加すると、RHEL/CentOS 7.2 デスクトップでシングル サインオン (SSO) が機能しません。

回避策：SSSD を使用するドメインを追加した後で、VMware のナレッジベースの記事 KB2150330「[SSO configuration changes required when using SSSD to join AD on RHEL/CentOS 7.2 Desktops](#)」の情報に従って /etc/pam.d/password-auth ファイルを変更します。

- FIPS モードを選択して Horizon Agent for Linux インストーラを実行すると、次の問題が発生します。

- インタラクティブなインストール プロセスで FIPS モードを選択すると、FIPS 確認ステータスの警告ダイアログが表示されず、管理者がインストールを継続できるかどうか確認できない場合があります。この問題は、エンド ユーザー使用許諾契約書 (EULA) の確認をバイパスした場合に発生します。
- RHEL 以外のプラットフォームで FIPS モードのインストールを選択すると、インストールに失敗し

ます。 この機能はインストールされず、エラー メッセージも表示されません。

回避策：なし。

- Horizon for Linux がインストールされ、FIPS 機能が有効になっているリモート デスクトップに接続するときに、シングル サインオン (SSO) が機能しません。

回避策： Active Directory (AD) ユーザー アカウントに手動でログインします。

## Horizon Agent

- Horizon Agent を手動デスクトップ プールのデスクトップにインストールすると、USB HUB デバイス ドライバが正しくインストールされない場合があります。Horizon Agent インストールの際、USB HUB デバイス ドライバのインストールが完了する前にシステムを再起動すると、この問題が起こる可能性があります。  
回避策：Horizon Agent をインストールし、システムの再起動を促すダイアログが表示された場合、USB HUB デバイス ドライバ ソフトウェアのインストールが実行されていないか、システム トレーを確認してください。デバイス ドライバ ソフトウェアのインストールが完了（通常 30 秒程度）するまで、システムを再起動しないでください。コマンドライン スクリプトを使用して Horizon Agent をサイレント インストールする場合、システムを再起動する前に、ドライバのインストールが完了するようにスクリプトを十分待機またはスリープさせるようにしてください。Horizon Agent をインストールした後もこの問題が解決しない場合、またはサイレント インストールでシステムの再起動を延期できない場合、以下の手順で USB HUB デバイス ドライバをアップデートしてください。

1.デバイス マネージャの [その他のデバイス] で、[VMware View 仮想 USB ハブ] を右クリックします。

2.[ドライバ ソフトウェアのアップデート] > [ドライバ ソフトウェアをコンピュータで参照する] をクリックします。

3.C:\ProgramFiles\VMware\VMware View\Agent\bin\drivers にアクセスし、[Next (次へ)] をクリックすると、Windows がドライバをインストールします。

- Windows 8 から Windows 8.1 にデスクトップをアップグレードするには、Horizon Agent をアンインストールし、Windows 8 から Windows 8.1 にオペレーティング システムをアップグレードして、Horizon Agent を再インストールします。代わりに、Windows 8.1 を新規インストールしてから Horizon Agent をインストールできます。
- Horizon Agent インストーラを Windows 8 の仮想マシンで実行しているときに、ビデオ ドライバをインストールすると、Windows デスクトップに何も表示されなくなります。インストールが正常に完了する前に Windows デスクトップが数分間黒い画面になる場合があります。  
回避策：Horizon Agent をインストールする前に、2013 年 5 月の Windows 8.0 のロールアップを適用します。[Microsoft 社のサポート技術情報 2836988](#) を参照してください。
- RDS ホストまたは VDI デスクトップとして展開された Windows 8.1 または Windows Server 2012/2012 R2 仮想マシンで Horizon 7 インストーラを実行すると、インストーラの処理が完了するまで膨大な時間がかかる場合があります。仮想マシンのドメイン コントローラまたは階層内にある他のドメイン コントローラが応答していない、またはこれらのコントローラに接続できない場合に、この問題が発生します。  
回避策：ドメイン コントローラに最新のパッチが適用済みで、十分な空きディスク領域があり、互いに通信できることを検証します。
- RDS ホストから Horizon Agent をアンインストールすると、エラー ダイアログが表示され、アンインストール操作を完了できません。このダイアログには、アンインストール操作で RDS ビデオ ドライバを停止できなかったと表示されます。この問題は、切断したデスクトップ セッションが RDS ホストでまだ実行されているときに発生します。  
回避策：RDS ホストを再起動し、Horizon Agent のアンインストールを完了します。ベスト プラクティスとしては、すべての RDS セッションをログオフしてから Horizon Agent をアンインストールします。
- FIPS モードでは Horizon Agent を Connection Server とペアにできず、Horizon Agent が C ドライブ以外のドライブにインストールされている場合はプールのステータスを利用できません。  
回避策：FIPS モードで運用する場合は、Horizon Agent を C ドライブにインストールします。
- Windows Server 2016 で Horizon Agent をアンインストールすると、使用中のアプリケーションに関する警告メッセージが表示されます。  
回避策：Windows の [プログラムの追加と削除] を使用して Horizon Agent をアンインストールするときに

表示されるダイアログ ボックスで[無視]をクリックします。コマンド ラインから Horizon Agent をアンインストールする場合は、コマンド `msiexec /x {GUID of Agent}` の代わりにコマンド `msiexec /x /qn {GUID of Agent}` を使用します。

- Horizon Agent をアンインストールすると、マウスの速度が遅くなり、動作が不安定になります。Horizon Agent をアンインストールすると、vmkbd.sys ドライバも削除されます。

回避策：Horizon Agent 仮想マシンで VMware Tools を修復します。

- Windows 7 ゲスト OS システムで Horizon Agent 7.1 から Horizon Agent 7.2 にアップグレードすると、「使用中のファイル」ダイアログが表示されます。セットアップで更新するファイルが VMware Horizon Agent アプリケーションによって使用されていることが通知されます。

回避策：[無視]をクリックして、アップグレードを続行してください。

- Horizon Agent は、物理マシンである RDS ホストに仮想印刷機能をインストールできません。仮想マシンである RDS ホストに Horizon Agent がインストールされている場合は、RDS デスクトップで仮想印刷がサポートされます。

回避策：仮想マシンに RDS ホストを構成し、Horizon Agent をインストールします。

- 仮想印刷機能は、Horizon Agent からインストールする場合に限ってサポートされます。VMware Tools でインストールしてもサポートされません。

- NVIDIA ドライバ バージョン 347.25 を使用するように構成された Windows 7 仮想マシン上で vDGA が有効になっていると、デスクトップ セッションが切断されることがあります。この問題は、Windows 8.1.x クライアントまたは他の NVIDIA ドライバ バージョンでは発生しません。

回避策：NVIDIA ドライバ バージョン 347.25 を使用しないでください。

- Horizon Agent のインストールで[スキャナ リダイレクト] セットアップ オプションを選択すると、ホスト統合率に大きな影響を与えることがあります。デフォルトでは、Horizon Agent のインストール時に[スキャナ リダイレクト] オプションは選択されていません。

回避策：ほとんどのユーザーで[スキャナ リダイレクト] セットアップ オプションが選択解除されていることを確認します。スキャナ リダイレクト機能を必要とするユーザーの場合は、個別のデスクトップ プールを設定し、そのプールでのみセットアップ オプションを選択します。

- スキャナ リダイレクト機能がインストールされた状態で Horizon Agent をアンインストールすると、実行中のアプリケーションをすべて閉じるようにアンインストール プロセスによって指示されます。

回避策：なし。Horizon Agent のアンインストールを続行する前に、表示されたアプリケーションを閉じる必要があります。

- クライアント ドライブのリダイレクトが、32 ビット版 Windows 10 オペレーティング システムにインストールされた Horizon Agent で動作しません。

回避策：なし。これは Microsoft Windows Server の問題です。

- 32 ビット版 Windows 10 で Horizon Agent インストールを実行すると、「引数が不正です」という例外がスローされ、[OK] をクリックするとインストールは続行します。このエラーは、印刷スプーラ サービスが無効の場合に発生します。

回避策：インストールを正しく実行するには、印刷スプーラ サービスを有効にします。

- Horizon Agent を Windows 10 または Windows Server 2016 オペレーティング システムにインストールし、表示倍率を 100% に設定していない場合、マルチモニタ環境でプライマリ モニターから別のモニターにアプリケーションをドラッグ アンド ドロップすることはできません。この問題は、不正なカーソル入力によって発生する場合があります。

回避策：Horizon Agent の DPI 設定の表示倍率を 100% に設定します。

- HKLM\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Agent\USB\UemTimeouts にタイムアウト値を設定しても、有効になりません。

回避策：エージェント仮想マシンを再起動します。

- 再起動を必要とするコンピュータベースのグローバル ポリシー オブジェクト (GPO) がインスタント クローンに適用されません。  
回避策：VMware のナレッジベースの記事 [KB2150495](#) を参照してください。
- [PCoIP Server がバインドおよびリッスンする TCP ポートを構成] または [PCoIP Server がバインドおよびリッスンする UDP ポートを構成] グループ ポリシーを設定中にリトライ ポート範囲のサイズを 0 に設定すると、PCoIP ディスプレイ プロトコルでデスクトップにユーザーがログインする時に接続に失敗します。Horizon Client から「このデスクトップの表示プロトコルは現在使用できません。システム管理者にお問い合わせください」というエラー メッセージが返されます。グループ ポリシーのヘルプ テキストに、ポート範囲は 0 ～ 10 であると間違って表示されます。  
注：RDS ホストでは、デフォルト ベースの TCP と UDP ポートは 4173 です。PCoIP が RDS ホストで使用されるとき、ユーザー接続ごとに別個の PCoIP ポートが使用されます。リモート デスクトップ サービスによって設定されるデフォルトのポート範囲は、同時ユーザー接続の予想される最大数に対応できる十分な大きさです。  
回避策：
  - シングルユーザー マシンの PCoIP：リトライ ポート範囲を 1 ～ 10 の範囲で設定します。（正しいポート範囲は、1 ～ 10 です）。
  - RDS ホストの PCoIP：ベスト プラクティスとして、これらのポリシー設定を利用して RDS ホストのデフォルト ポート範囲を変更しないでください。また、TCP や UDP のポート値をデフォルトの 4173 から変更しないでください。TCP または UDP ポート値を 4172 に設定しないでください。この値を 4172 にリセットすると、RDS セッションの PCoIP のパフォーマンスに悪影響を与えます。
- RDS ホストでホストされている Windows 2008 R2 SP1 デスクトップ プールでは、言語同期設定（クライアントからゲストまで）がデフォルトでオンになっており、オフにすることはできません。そのため、Horizon Agent の「PCoIP ユーザー デフォルト入力言語の同期をオンにする」グループ ポリシーを無効にしても、影響はありません。リモート デスクトップ言語はクライアント システムで使用される言語と常に同期します。  
回避策：なし。
- 最初にユーザー名とパスワードでログインした後で、グループ ポリシー設定「クライアント マシンのロックを解除するときにリモート セッションのロックを解除」が有効になっているローカル マシンにスマート カード認証による再帰的なロック解除でログインを試み、Horizon Client から現在のユーザーとしてログインすると、GSSAPI\_ERROR メッセージが表示されます。  
回避策：Horizon Client から「現在のユーザーとしてログイン」を無効にし、ユーザー名とパスワードを使用して仮想デスクトップのロックを解除します。
- 「バンド幅制限」グループ ポリシー設定が有効になりません。この設定でユーザーが入力した値は無視され、既存のバンド幅がシリアル ポートのリダイレクトで使用されます。消費されるバンド幅は、同時に使用されるシリアル ポート デバイスの数と、各デバイスで使用されるボー レートによって異なります。  
回避策：なし。
- 第 1 レベルのデスクトップ（Horizon Client と Horizon Agent がインストールされているマシン）が仮想デスクトップで、第 2 レベルのデスクトップが公開デスクトップのネスト モード構成の場合、第 1 レベルの仮想デスクトップで「クライアント プリンタのリダイレクトに適用するフィルタを指定」グループ ポリシー設定を使用しても、第 2 レベルのデスクトップには適用されません。  
回避策：第 2 レベルのデスクトップでプリンタをフィルタリングする場合には、第 2 レベルのデスクトップで「クライアント プリンタのリダイレクトに適用するフィルタを指定」グループ ポリシーを設定します。

## Horizon Client

このセクションでは、Horizon Client または HTML Access を使用してリモート デスクトップまたはアプリケーションに接続するときに発生する可能性がある問題について説明します。特定の Horizon Client プラットフォームでのみ発生する問題については、[Horizon Clients のドキュメント ページ](#)で Horizon Client リリース ノートを参照してください。

- NVIDIA GRID vGPU を使用するように設定されたデスクトップ プールが、PCoIP 表示プロトコルを使用してプール内の仮想デスクトップを起動できません。  
回避策：NVIDIA GRID vGPU で設定されたデスクトップ プール内の仮想デスクトップを起動するには、VMware Blast 表示プロトコルを使用します。
- Linux 版、Mac OS X 版、または Windows 版 Horizon Client の 3.5.x 以前のバージョンで USB 自動接続が有効になっており、USB リダイレクトがスマート ポリシーで無効になっているリモート デスクトップに接続すると、クライアント システムに接続している USB デバイスがクライアント システムに表示されなくなります。  
回避策：Horizon Client 4.0 以降にアップグレードするか、VMware のナレッジベースの記事 KB2144334「[USB devices on your local system disappear when you connect to a remote desktop with Horizon Client 3.5.x or earlier](#)」に記載されている解決策のいずれかを実行します。
- 単一の RDS ホストに対して複数の接続を連続して確立すると、何人かのユーザー（たとえば、120 ユーザーのうちの 1 ユーザーまたは 2 ユーザー）が RDS デスクトップ セッションの起動や再起動を行えなくなることがあります。  
回避策：RDS ホストの vCPU 数と RAM サイズを増やします。
- RDS ロールが RDS ホストに構成されてからの日数が 120 日を超えていて、これまで接続をしたことがない場合、RDS デスクトップまたはアプリケーションへの最初の接続が失敗します。この問題は RDP のみで発生します。  
回避策：数秒待ってから再度 RDS デスクトップまたはアプリケーションに接続します。
- Microsoft の推奨に従って、場所ベースのプリンタの永続設定が、プリンタ ドライバの DEVMODE の拡張部分ではなく、プライベート領域に保存されている場合、設定はサポートされません。  
回避策：ユーザー環境設定がプリンタ ドライバの DEVMODE 部分に保存されたプリンタを使用してください。
- Windows Server 2008 R2 SP1 RDS ホストで実行されているデスクトップ セッションでは、Windows Media Player で H.264 ビデオ ファイルやビデオ ファイルのある AAC オーディオを再生できません。これは既知のサードパーティの問題です。  
回避策：[Microsoft KB 記事 2483177](#) にアクセスし、Windows Server 2008 R2 のデスクトップ エクスプレス デコーダー更新パッケージをダウンロードします。
- Windows Server 2012 R2 RDS ホストで実行されているデスクトップ セッションで Chrome ブラウザを使って YouTube を再生すると、動画の表示が乱れることがあります。たとえば、黒い箱がブラウザ ウィンドウに表示されます。この問題は他のブラウザや Windows Server 2008 R2 SP1 RDS ホストでは発生しません。  
回避策：Chrome ブラウザで、[Chrome] > [設定] > [詳細設定を表示] > [システム] の順に選択し、[ハードウェア アクセラレーションが使用可能な場合は使用する] の選択を解除します。
- Windows 2008 R2 SP1 物理 RDS ホストで実行されているデスクトップでビデオを再生し、メインのモニターから別のモニターにビデオの表示を移す場合、ビデオの再生が停止、または映像フレームの更新が停止します（音声は引き続き再生されることがあります）。この問題は仮想マシン RDS ホストまたはシングル モニター構成では発生しません。また、Windows Server 2008 R2 SP1 でのみ発生します。  
回避策：ビデオはメイン モニターでのみ再生します。または、RDS デスクトップ プールを仮想マシン RDS ホスト上に構成します。
- リモート アプリケーションを起動して応答しなくなったので別のアプリケーションを起動すると、2 つ目のアプリケーションのアイコンがクライアント デバイスのタスクバーに追加されません。  
回避策：最初のアプリケーションが応答するまで待機します。（たとえば、大量のファイルが読み込まれている場合、アプリケーションが応答しないことがあります。）最初のアプリケーションが応答しないようであれば、RDS 仮想マシンでアプリケーション プロセスを強制終了します。
- 2013 年 2 月の更新プログラムがインストールされておらず、Windows Server 2012 R2 を実行中の RDS ホストでホストされているアプリケーション Lync 2013 は、起動すると、「Microsoft Lync は動作を停止しました」というエラー メッセージが表示された後、すぐにクラッシュします。これは、Lync 2013 の既知の問題です。  
回避策：Lync の 2013 年 2 月の更新プログラムを適用してください。更新プログラムは、[Microsoft 社のサポート技術情報 2812461](#) で入手できます。
- VMware Blast 表示プロトコルのサポートにより作成される RDS ホスト ファームについては、VMware Blast

セッションの UDP ネットワーク プロトコルを有効にすることにより、Blast Secure Gateway のスケールが削減され、セッションが TCP ネットワーク プロトコルに戻ることがあります。

**回避策：**RDS ホストでは、VMware Blast セッション向けの UDP ネットワーク プロトコルを有効にしないでください。

- .ico ファイル拡張子を持つカスタマイズされたアプリケーション アイコンが、Windows デスクトップのショートカットまたは [スタート] メニューに表示されません。

**回避策：**カスタマイズされたアプリケーション アイコンを保存する場合は、.png ファイル拡張子を使用します。

- .ico ファイル拡張子を持つカスタマイズされたアプリケーション アイコンが、Android デバイスの Horizon Client に正しく表示されません。

**回避策：**カスタマイズされたアプリケーション アイコンを保存する場合は、.ico ファイル拡張子を使用しないでください。

- RDS ホストで複数のユーザー セッションが実行されているときに、プロファイル データが見つかりません。セッションが切断状態でも、これらのセッションが RDS ホストのタスク マネージャに表示されていると、この問題が発生します。

**回避策：**RDS ホストからセッションを削除するか、公開デスクトップまたはアプリケーションからユーザーをログオフします。

- Workspace ONE にログインしても、アプリケーションの事前起動セッションが開始しません。事前起動セッションは、Horizon Client から Connection Server へのログインに成功した場合にのみ開始します。

**回避策：**事前起動が有効になっているアプリケーションを開始するには、Workspace ONE からアプリケーションまたはデスクトップを手動で開始します。

- Connection Server インスタンスのサーバ名または FQDN（完全修飾ドメイン名）に ASCII 以外の文字が使用されている場合、Horizon Client が Connection Server インスタンスに接続できません。

**回避策：**なし。

- リモート デスクトップが PCoIP を使用して接続され、マルチモニターを使用するよう設定されている場合、ユーザーが Microsoft PowerPoint 2010 または 2007 で、2 台目のモニターで解像度を指定してスライドショーを再生すると、各スライドの一部が各モニターに表示されます。

**回避策：**クライアント システムで、2 台目のモニターの画面解像度を希望する解像度にサイズ変更します。リモート デスクトップに戻り、2 台目のモニターでスライドショーを開始します。

- リモート デスクトップが PCoIP を使用して接続されている場合、ユーザーが Microsoft PowerPoint 2010 または 2007 で解像度を指定してスライドショーを再生すると、スライドは指定した解像度で再生され、現在の解像度に合わせて拡大・縮小されません。

**回避策：**再生解像度で [現在の解像度を使用] を選択します。

- デスクトップの Windows Media Player でビデオを再生する場合、PCoIP 切断が特定の状況で発生する場合があります。

**回避策：**リモート デスクトップで Windows レジストリを開いて、64 ビット Windows では HKLM\Software\Wow6432Node\Policies\Teradici\PCoIP\pcoip\_admin\_defaults レジストリ キー、または 32 ビット Windows では HKLM\Software\Policies\Teradici\PCoIP\pcoip\_admin\_defaults レジストリ キーに移動します。pcoip.enable\_tera2800 DWORD レジストリ値を追加して、その値を 1 に設定します。

- リモート デスクトップからクライアント システムへの、またはクライアント システムからリモート デスクトップへの、イメージのコピーや貼り付けが、設定されたクリップ ボードのメモリ サイズがディスク上のイメージのサイズより大きい、または同じであっても、クリップボードのメモリ サイズがイメージに対応するには小さいために失敗する場合があります。この問題は、ディスク上のイメージのサイズがクリップボードのメモリのイメージのサイズより小さいために発生します。たとえば、クリップボードのメモリでのイメージのサイズは、ディスクのイメージの 2 ～ 3 倍のサイズになる場合があります。

**回避策：**イメージに対応できるようにクリップボードのメモリ サイズを増加してください。

- VMware Blast 表示プロトコルを使用し、かつ Blast Secure Gateway (BSG) が無効な場合、Horizon Client は、短時間（約 1 分）ネットワーク停止からリカバリできない場合があります、デスクトップへの接続が切断されます。この問題は、BSG が有効な場合は発生しません。

**回避策：**セッションを再接続します。

- 短時間ネットワークが停止した後、Horizon Client とリモート デスクトップ間の VMware Blast セッション

が回復する、または再接続すると、次の一部の機能が動作を停止する場合があります。

- スマート カード
- クライアント ドライブ リダイレクト (CDR) および File Association
- マルチメディア リダイレクト (MMR)
- Lync/Skype for Business

回避策：セッションを切断して再接続します。

- ビデオ通話を行うために Lync VDI を使用する場合、ローカルのイメージは表示されない場合があります。

回避策：Microsoft Lync VDI を最新バージョンへアップデートします。

- リモート デスクトップにアクセスするために F5 サーバに接続し、F5 サーバが RSA サーバを使用するように構成されている場合、ユーザーは、RSA ユーザー名およびパスコードを入力する必要があります。RSA ユーザーの PIN が設定されていない場合、Horizon Client はユーザーのパスコードの送信に失敗する場合があります。この問題は、F5 に限定された問題です。

回避策：ユーザーは、F5 と RSA のセットアップで PIN を使用する前に、PIN を設定するために RSA 管理者に連絡する必要があります。

- Horizon Client とリモート デスクトップ間でテキストやイメージをコピーして貼り付ける場合、データ転送は低下します。

回避策：一度に少量のデータを転送するように、有効なクリップボードのサイズを減らします。

- Workspace ONE モードが有効なサーバのリモート デスクトップまたはアプリケーションにユーザーが最初に接続したときに、Horizon Client は、クライアントのキャッシュに Workspace ONE のホスト名を保存します。その後、Horizon Client はそのサーバの Workspace ONE ポータルに常によりダイレクトされます。Workspace ONE ポータルに常によりダイレクトされるため、Workspace ONE サーバが停止したり、Workspace ONE モードが変更されるか、無効になると、Horizon Client はサーバに再接続できなくなります。

回避策：Horizon Client のサーバ セレクタから Connection Server インスタンスを削除するか、HTML Access を使用してリモート デスクトップまたはアプリケーションに接続します。

- Skype for Business の VDI 最適化ソリューションは、Lync 2010 クライアントの相互運用性と互換性はありません。
- RDS ホストが、セッションで最初に起動したアプリケーションのアプリケーション データのみを保存します。後続のアプリケーションの起動データは保存されません。  
回避策：セッションからログアウトして、別のアプリケーションを起動し、そのアプリケーションのデータを保存してください。

- Windows 10 クライアント オペレーティング システムで、Internet Explorer または Microsoft Edge から HTML Access 経由で Connection Server、セキュリティ サーバまたはレプリカ サーバに接続すると、デスクトップの起動に失敗します。この問題は、Windows 10 N、Windows 10 KN、Windows 7 N、Windows 7 KN ゲスト オペレーティング システムを使用しているデスクトップに影響を及ぼします。

回避策：Firefox または Google Chrome で HTML Access を使用します。

- 通話の終了後に次のようなメッセージが表示される場合があります。  
Skype for Business が停止しました。

回避策：Skype for Business の更新を適用します。詳細については、<https://support.microsoft.com/en-us/help/3158521/lync--skype-for-business--or-outlook-2016-or-2013-crash> を参照してください。

- Windows、Mac、Linux Horizon Client で Skype for Business（最適化モード）のオーディオ設定の着信音音量を変更しても、着信時の音量が変わりません。

回避策：着信時に、Horizon Client に接続している出力デバイスまたはスピーカーの音量を手動で変更し、出力音量を変更します。

- リダイレクトされたビデオを Internet Explorer で再生しているときに、ブラウザのタブを切り替えると、ビデオ ウィンドウの一部が、ブラウザ ウィンドウの後ろまたは横で表示され続けます。この問題が発生するのは、Windows 7 デスクトップのみです。

回避策：Windows 8.1 デスクトップを使用してください。または、リダイレクトされたビデオを再生して

いるときに、別のタブに切り替えしないでください。

- Flash MMR が有効になっているリモート デスクトップで YouTube Flash ビデオを再生すると、アクション スクリプト エラーが発生します。

回避策：

- オプション 1。YouTube Web サイトのスクリプト サポートを開いて、この YouTube サイトの URL に appMode=1 をつけて Url WhiteList に追加します。
- オプション 2。Internet Explorer で [ツール] > [インターネット オプション] > [全般] を開きます。[閲覧の履歴]にある [設定] ボタンをクリックします。表示されるウィンドウで、[ファイルの表示] をクリックします。INet Cache フォルダにあるすべてのファイルを削除します。

- Windows 10 のエージェントで Flash ビデオを再生しているときに、Flash リダイレクトが機能しません。

- Intel vDGA については、複数モニターのサポートは最大 3 台のモニターに制限されます。Intel ドライバは、解像度が最大 3840 X 2160 のモニター 3 台までしかサポートしません。4 台のモニターに接続しようとすると、1 台の画面のみが機能し、3 台には黒い画面が表示されます。
- 3D レンダリングと vSGA が有効なマシンで 4K モニターが構成されている場合、Windows Media Player ウィンドウの移動、サイズ変更、または全画面表示モードへの切り替えが非常に遅くなる場合があります。この問題は、2D、ソフトウェア 3D レンダリング、または解像度が 2560x1440 のモニターでは発生しません。

回避策：なし

- Windows 8/8.1 デスクトップで、3D スクリーン セーバーが [3D レンダラー] 設定が無効な場合でも動作し、正しく表示されません。この問題は Windows 7 デスクトップでは発生しません。

回避策：エンド ユーザーが 3D スクリーン セーバーを使用したり、デスクトップ プールの [3D レンダラー] 設定を有効にしたりすることがないようにしてください。

- NVIDIA M60 GPU およびドライバ バージョン 361.89 または 361.94 では、Windows デスクトップに最初に接続するとき、またはデスクトップを右クリックして [NVIDIA コントロール パネル] > [システム情報] を選択するとき、画面がぼやけて表示されることがあります。

回避策：ディスプレイの解像度を変更するかフルスクリーン モードに変更すると、問題は修正され、最初の解像度またはスクリーン モードに戻ることができます。問題は、最初に発生した後は起こらなくなります。また、NVIDIA ドライバ 361.51 では、この問題は発生しません。

- Windows Server 2016 RDS ホストで 3D RDSH カスタム オプションを使用して Horizon Agent をインストールすると、公開済みのデスクトップを起動したときに黒い画面が表示されます。

回避策：3D RDSH 機能を使用する場合は、Windows Server 2012 RDS ホストを使用します。

- スマート カードを使用して RDS デスクトップにログインすると、シングルユーザーの仮想デスクトップの場合よりも時間がかかります。この問題は、Windows クライアントでは他のクライアントに比べて深刻ではありません。

回避策：なし。

- Windows 7 クライアント マシンで、スマート カードの削除ポリシーがトリガーされたときに、Horizon Client が終了します。

- VDI デスクトップがリモートの場所に存在し、ネットワーク遅延が大きくなると、スマート カード認証による再帰的なロック解除が機能しない場合があります。

回避策：デスクトップのロックを手動で解除します。

- Connection Server のインスタンスまたはセキュリティ サーバのデフォルト HTTPS ポート 443 を変更した場合に、ユーザーが Horizon User Portal からデスクトップの開始を試みると、デスクトップの起動が失敗します。この問題は、ユーザーが Horizon Client または HTML Access のいずれかで Horizon Workspace 経由でデスクトップにアクセスを試みると発生します。

回避策：デフォルト HTTPS ポート 443 をそのままにします。

- Horizon Administrator で SAML 認証子を追加すると、メタデータ URL が Windows 証明書ストアの [信頼されたルート証明機関] フォルダに信頼された証明書をポイントしているときでも、[無効な証明書が検出されました] ウィンドウが表示されます。この問題は、信頼された証明書が Windows 証明書ストアに追加されたときに、自己署名証明書を持つ既存の SAML 認証子が同じメタデータ URL を使用していた場合に発生します。

回避策：

1. Windows 証明書ストアの [信頼されたルート証明機関] フォルダからメタデータ URL 用の信頼され

た証明書を削除します。

2. 自己署名した証明書がある SAML 認証子を削除します。
3. Windows 証明書ストアの [信頼されたルート証明機関] フォルダにメタデータ URL 用の信頼された証明書を追加します。
4. SAML 認証子を再び追加します。

- Horizon Client を初めて利用する場合、接続したデスクトップが使用可能な状態になっていても、Windows Server 2008 R2 SP1 デスクトップに接続できないことやブラック スクリーンになることがあります。

**回避策：**Windows Server 2008 R2 SP1 仮想マシンをシャットダウンし、電源を入れ直してください。デスクトップが使用可能な状態になった時点で、再接続してください。仮想マシンを再設定または再起動しても、この問題は解決できません。仮想マシンを最初にシャットダウンしてからパワーオンします。

- 場合によっては、Windows 8.x デスクトップ セッションに再接続したときに、デスクトップ ディスプレイがすぐに表示されないことがあります。最大 20 秒間、黒い画面が表示される場合があります。

**回避策：**なし

- 高品質かつ積極的なスロットルを用いた Adobe Flash 最適化設定は、Windows 8 または Windows 8.1 デスクトップで Internet Explorer 10 または Internet Explorer 11 をエンド ユーザーが使用する場合は完全に有効にはなりません。

**回避策：**なし。

- Windows 8 リモート デスクトップのユーザーが Kerberos 認証を使用してログインする場合、デスクトップはロックされ、Windows 8 がデフォルトでユーザーを表示するデスクトップのロックを解除するためのユーザー アカун トは、Kerberos ドメインからのオリジナル アカун トではなく、関連する Windows Active Directory アカун トとなります。このユーザーにはログインしたアカун トは表示されません。これは Windows 8 の問題であり、Horizon 7 自体の問題ではありません。この問題は、Windows 7 でまれに発生する場合があります。

**回避策：**ユーザーは「他のユーザー」を選択することでデスクトップのロックを解除する必要があります。これで Windows は正しい Kerberos ドメインを表示し、ユーザーは Kerberos ID を使用してログインできます。

- Windows 10 リモート デスクトップの画面サイズがあるモニターで変更され、別のモニターで Windows Media Player が開いている場合、Windows Media Player はアクティブにならず表示することができません。ビデオが再生されているかどうかや、MMR が有効かどうかに関わらず、この問題は発生します。

**回避策：**Windows Media Player を閉じてから再度開くか、マルチ モニター ディスプレイでリモート デスクトップのサイズを変更します。

- スキャナ リダイレクトを Windows 10 デスクトップで使用すると、Microsoft の [Windows Fax とスキャン] が機能しません。

**回避策：**別のスキャン アプリケーションを Windows 10 デスクトップで使用するか、他のデスクトップ プラットフォームに変更します。

- スキャナ設定が WIA スキャナで有効にならないことがあります。たとえば、グレースケール モードを選択して、元画像の領域の一部を選択すると、スキャナはカラーを使用して、画像全体をスキャンすることがあります。

**回避策：**TWAIN スキャナを使用してください。

- 一部の環境では、別の WIA スキャナに切り替えると、元のスキャナから画像がスキャンされ続けることがあります。

**回避策：**リモート デスクトップ セッションからログオフします。新しいデスクトップ セッションを起動して、選択したスキャナを使用してスキャンを実行します。

- Ambir ImageScan Pro 490i を使用して、リモート デスクトップやアプリケーションでスキャンを実行するときに、ダイアログ ボックスには「Scanning... (スキャン中...)」と常に表示され、スキャンが完了しません。

**回避策：**クライアントでスキャンを実行します。クライアントをスキャンすると、スキャナがキャリブレーションされます。キャリブレーション操作が完了したら、リモート デスクトップやアプリケーション内でスキャンを実行します。

- TOPAZ 署名パッドを Windows Server 2012 リモート デスクトップの複数のリモート デスクトップ セッションで使用している場合、1 台のデバイスでしかセッションが正しくリダイレクトされない場合があります。TOPAZ 署名パッドには同じシリアル番号を割り当てられているために、この問題が発生する場合があります。

あります。

**回避策：**異なるシリアル番号の TOPAZ 署名パッド デバイスを使用します。TOPAZ の製造元が提供しているシリアル番号変更ソフトウェアを使用して、シリアル番号を変更できます。

- Horizon 7 for Linux デスクトップの HTML Access では、Unicode キーボード入力が正しく機能しません。
- Linux デスクトップに接続するとき、一部のキーボード入力が機能しません。たとえば、クライアント デバイスとリモート デスクトップの両方で、英語以外の IME を使用している場合は、一部の英語以外のキーは正しく表示されません。

**回避策：**クライアント デバイスで英語の IME を設定して、リモート デスクトップで英語以外の IME を設定します。

- PCOIP を使用する RDSH デスクトップでリソースが不足すると、次のエラーが発生し、デスクトップを起動できない場合があります。このデスクトップの表示プロトコルは現在使用できません。システム管理者にお問い合わせください。

**回避策：**RDSH サーバに 32GB の RAM と 16 個の vCPU を設定します。